

I 学習内容の改善・充実

- 1 語彙指導の改善・充実「意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句と語句の関係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語句の意味や語句の使い方に対する認識を深め、語彙の質を高める。」
- 2 情報の扱い方に関する指導の改善・充実「様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりすることが求められている。一方で、「教科書の文章を読み解けていない」現状があり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようすることは喫緊の課題である。」
- 3 学習過程の明確化、「考えの形成」の重視（下図 参照のこと）
- 4 我が国の言語文化に関する指導の改善・充実
- 5 漢字指導の改善・充実

II 思考力・判断力・表現力等 「書くこと」における学習過程

I 題材の設定、情報の収集、内容の検討

- 1 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから、書くことを選び\*1、集めた材料を分類したり関係付けたり\*2して、伝えたいことを明確にする\*3こと。

- \*1 相手や目的に加え、場面や状況を考慮して、家庭や地域、学校生活などで感じたり考えたりしたことから選択して各題材を決めること。
- \*2 集めた材料を目的や意図、相手に応じて、主張の理由、事例として適切なものを選んだり、優先順位を考えて並べたりすること。
- \*3 示すべき理由や事例などの事実が絞られること。

II 構成の検討

- 2 筋道の通った文章となる\*1のように、文章全体の構成や展開\*2を考えること。

- \*1 「事柄の順序」に沿った構成や「書く内容の中心を明確に」した構成を工夫することに加え、例えば、「考えと理由や事例」、「原因と結果」、「疑問と解決」などのつながりや配列を意識して、首尾一貫した展開となる文章のこと。
- \*2 例えば、文章全体の構成には、「序論—本論—結論」や頭括型（結論⇒理由）、尾括型（理由⇒結論）、双括型（結論⇒理由⇒結論）等がある。また、書き出しに読み手の関心を喚起する事例や全体の概略を配置したり、終結部に全体のまとめを位置付けたりするなど展開を工夫すること。

III 考えの形成・記述

- 3 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする\*1とともに事例と感想、意見を区別して書いたりするなど\*2、自分の考えが伝わるに書き表し方を工夫すること。
- 4 引用\*3したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

- \*1 「II 構成の検討」過程において、目的や意図に応じて、予め「詳しく書く部分」と「簡単に書く部分」を検討しておくこと。
- \*2 自分の考えたことが、事実（客観的事象）に裏付けられたものになっているか振り返り、自分の考えをより深めていけるようにすること。また、事実と感想、意見を区別して書くためには、文末表現に注意することも重要である。
- \*3 「引用」は自分の考えや意見の説得力を増すために行うものであることを意識し、どういう効果をおねらうのか、明確にすること。

IV 推敲

- 5 文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整えること。\*1\*2

- \*1 主語と述語、修飾語と被修飾語の関係の明確さ、長音、拗音、促音、撥音、助詞などの表記の仕方のほかに、敬体と常体、断定や推量、疑問などの文末表現の使い方などに注意すること。
- \*2 □ 文章全体を見たときに一貫性があるか  
□ 目的や意図に照らして適切な構成や記述になっているか  
□ 事実と感想、意見とが区別して書かれているか  
□ 引用の仕方、図表やグラフなどの用い方は適切か  
といったことなどが、推敲の観点となる。

V 共有

- 6 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い\*1、自分の文章のよいところを見付ける\*2。

- \*1 互いの書いた文章を読み合い、目的や意図に応じた文章の構成や展開になっているかなどについて、具体的に意見や感想を述べ合うこと（相互評価）。
- \*2 自分の文章のよいところを見付けたり（自己評価）、互いの文章のよいところを見付けて伝え合ったりすることを通して、自分の表現を磨いていくこと。

III 思考力・判断力・表現力等 「話すこと・聞くこと」における学習過程

I 話題の設定、情報の収集、内容の検討

- 1 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたり\*1して伝え合う内容を検討すること。
- \* ある事柄を説明するために材料を複数のまとまりに分けたり、異なる材料を総合してどのようなことが言えるのかを明確にしたりすること。

II 構成の検討、考えの形成（話すこと）

- 2 話の内容が明確になる\*1のように、事実と感想、意見を区別\*2するなど、話の構成を考えること。
- \*1 自分の立場や結論を明確にすること。
- \*2 接続語、文末表現を使い分けて関係性を区別すること。

III 表現、共有（話すこと）

- 3 資料を活用するなどして\*1、自分の考えが伝わるように表現を工夫する\*2こと。
- \*1 説明の補足、伝えたいことの強調⇒数値、図解、キーワード等を資料として活用すること。
- \*2 相手の興味・関心や情報量を予想して表現すること。また、聞き手のうなずきや表情にも注意すること。

IV 構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）

- 4 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え\*1、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる\*2こと。
- \*1\*2 話し手の目的と自分の意図を、話し手の考えと自分の考えを、比較・関連付けて自分の考えをまとめること。

V 話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）

- 5 互いの立場や意図を明確にしながらかつ計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりする\*1こと。
- \*1 立場・意図・理由を表明する、話し合いの内容（順序）、時間配分を検討する、異なる意見を自分の考えに生かすこと。